# 第７回　長野市活力ある学校づくり検討委員会　議事録（要旨）

【開催日時】

日　時　　平成 29 年6月5日(月)8時 30 分～10 時 30 分

場　所　　長野市役所　第一庁舎　5階庁議室

【出席者】

（委　員）

山沢委員長、風間委員、志川委員、髙橋委員、田川委員、藤澤委員、松岡委員、丸山委員、鷲澤委員

（長野市）

近藤教育長、松本教育次長、熊谷教育次長、樋口教育次長副任兼総務課長、上石学校教育課長、倉島主幹兼小中高連携推進室長、新津主任指導主事、唐木主任指導主事、小川係長、近藤主査、中村指導主事、嶌田指導主事、千野指導主事、島田指導主事、山岸指導主事、田中指導主事、関指導主事、深澤指導主事、藤森指導主事

【会議次第】

１ 開　　会

２ あいさつ（教育長）

３ 協議事項

⑴　前回出された意見について

⑵　前回保留案件への回答

・市立小・中学校の主な経費について

・市立中学校の部活動について

⑶　意見交換

４ そ の 他

５ 閉　　会

【会議資料】

資料1　第6回 長野市活力ある学校づくり検討委員会における委員からの意見(要旨)

資料2　市立小・中学校の主な経費 比較表

資料3　市立中学校の部活動

参考資料　避難場所・避難所 市立小・中学校指定の状況(平成 28 年度)

【発言要旨】

(委員長)

○　前回、要望があった「避難所の設備の状況」については、参考資料として配付してあるので確認いただきたい。

○　資料1に、前回、皆様からいただいた意見をまとめてあるのでご覧いただきたい。要旨を事務局から説明させていただく。

―　事務局　資料1説明　―

（委員長）
○　前回、学校経営の経費について数字で示して欲しいと要望があったため、資料2にお示しした。

―　事務局　資料2説明　―

（委員長）
○　資料3の市立中学校の部活動について説明した後、ご意見をまとめて伺いたい。

―　事務局　資料3説明　―

（委員長）
○　資料1から3についてお気づきの点やご意見がればお願いする。

（委員）
○　ICT について、資料1では交流にウエイトを置いた形になっているが、子ども達への学習支援等、交流だけに使用するというニュアンスではない。たとえば、算数等の学習支援のため、子ども達にタブレット等を自宅等へ貸し出しができれば良いと思う。
○　資料の中にICT 支援員とあるが、授業外の学習で支援することが業務委託の中に入っているのか伺いたい。

（事務局）
○　学習支援についてはこの業務に含まれていない。

（委員）
○　学校には様々な事情を抱えた子どもが通っている。何らかの事情があり家に帰れなかったり、学習障害を抱えていたり、このような子どもに担任の先生が全て関わっていると、先生は他の仕事ができなくなってしまう。NPO　等を利用したり、大学生を雇って取り組んでいるところもある。このような組織のサポートを受けながら、個別指導を受けることが出来ない場合にICT を利用できないかというニュアンスで話をした。

（事務局）
○　各市町村で ICT 機器を導入していると、先生方が異動した時にその機器に慣れるための支援が必要なので、県下の市町村の足並みが揃うよう、県は統一したいようだ。委員のご指摘のとおり、視覚的な困難さがある子どもには有効な手段であるが、聴覚の場合はどうするか、1 人で困り感を抱いている子どもはどうするか、それぞれの教育的ニーズに応じることが大事であると同時にお金がかかるものなので、県でお願いしたいと私から

要望を申し上げた。

（委員長）

○　信州大学は学生が約1万人おり、約 550 億円の経費がかかっている。そのうち病院は約 250 億円で、自立した形になっている。残りの約300億円が学部と大学院の教育にかかる経費となり、一人当たり約300万円の計算になる。国は 40%しか支援してくれないので、残りの 60%は自分たちの研究などで賄っている。国立大学の学生は一人当たり約 300 万円というのが目安になると思う。そういう意味では資料2にあるＡ小学校やＥ中学校は恵まれていると思う。このような形で市立の学校教育の質を守っていこうとする市の姿勢に決意が感じられる。

○　この資料に示されているのは直接経費であり、その他のことも色々あると思われるので、長野市全体の教育予算はもっとあるのではないか。

○　人件費の割合が高くなっている。大学でも良く言われることだが、人を教育するのは人であるからという視点も当然だと思う。ここでは、市立の学校に対して市は独自の職員を配置して対応していることが分かる。

○　このような学校経費を見かけ上さらに価値を高めるため、公共施設マネジメントの観点から、社会教育に学校施設がどのように関わっていくかという点を加えると、ここにある経費だけでは計れない大きな効果があると思われる。市民参加の行事に施設も含めた学校のシステムがどのような効果があるかという点からもご意見をいただきたい。

（委員）

○　資料2から、児童一人当たりの経費が、Ａ小学校はＤ小学校の約 10 倍もかかり、学校教育とはいえ、市費の負担という点で中山間地は恵まれていると思う。ただ校外活動に関わる経費については、中山間地の小中学校はバス代や様々な交流事業があり負担が大きくなっている。このことについてもこの委員会でご検討いただきたい。

（委員）

○　Ａ小学校とＥ中学校の経費が突出して大きいのに驚いた。ほとんどが人件費であり、今後、Ａ小学校やＥ中学校といった学校が増えていくことは市費の負担が増えていくので、ある程度歯止めをかけないといけない。その分経費が浮いたからいいのではなく、BCD の小学校に市費が割り振られていないので、もしＡ小、Ｅ中にかかる市費を減らすことができるなら、BCD の小学校や他の中学校に市費を割り振り、先生の充実を図った方が良いと思う。部活動の資料も出ているが、先生の負担が非常に大きい中で、先生の負担を減らし、教育を充実させる取組も必要であると考える。

○　学校で設置する部活は、学校の自由なのか、それともきまりのようなものがあるのか。

（事務局）

○　学校の実情、施設や生徒のニーズにより学校ごとに決めていると思われる。

（委員）

○　子どもの時、あの学校は野球部がないから嫌だなとか、サッカー部がないから嫌だと思ったことがあった。しか

し、行く学校は自分では決められないので、なんでこうなのか疑問に思っていた。

（委員長）

○　運動場など施設の問題などもあるのか。

（事務局）

○　基本的には子どもの希望であるが、指導者の問題もある。いつでも指導者がいるわけではない。小規模の学校では個人競技はできるが、集団で行う部活は成立しなくなっている。

（委員長）

○　施設や学校システムを含め、こんなことをやっている、いない等、主に施設の観点での公共的な使い方について、専門委員会で意見が出たりしていないか。

（委員）

○　小学校や中学校は色々な面で地域の核となっている。資料2のように数学的、経済学的な観点から一覧にするのは分かりやすいと思う。

○　人任せでなく、地域の人が中心となり、自分達の地域をどう作り、どう育てるのかをもう一度整理して話し合い、その結果、こんな施設にしたいと総合的に考えていくことが大切だ。施設はなんでも同じでなく、スタイルを変えたり、地域を元気にするため、地域の人や幅広い団体が関わって使用できる施設にする時代になったと思う。

（委員長）

○　資料1の前回の意見のまとめを見ながら、議論を進めていただきたい。

（委員）

○　学校にはお金がずいぶんかかるものだと感じた。

○　活力ある学校をどう考えるのか。私の住んでいる信州新町は限界集落に近く、60 歳以上が 48％位になっている。そういう状況の中で地域を元気にするのは子どもの声だ。昨日、信州新町小学校の運動会があり、子どもに関係のないお年寄りも含め、子どもの数の何倍も地域の方がみえた。子どもから元気をもらうということが必要だと感じた。学校のことだけを取り上げるのではなく、地域の中の学校という面でもご検討いただきたい。

（委員長）

○　地域の文化や伝統を経験させることは子どもにとっても必要なことだ。これも教育であり、このために経費を使う必要もあると考える。この点を都市部の市民にしっかりと理解していただかないといけない。市民にしっかり説明して、費用はかかるが、長野市全体で同じ教育をしっかり行いたいと市長が言えるようにする必要がある。

（委員）

○　小規模校では子ども一人当たりにかける経費は大きい。一方で、大きな学校では少ない。しかし、子ども達は同じ教育を受ける必要があると考える。それをどうするかが重要である。授業は皆一緒だが、課外活動やクラブ活動は全く違う要素で学習しているものなので、可能な限り希望通りできるようにするにはどうすればよいか考える必要がある。

○　地域が学校教育に乗り込むのではなく、子ども達に寄り添った支援をしたいと思う。学校の様子を見ていると、PTA と地域住民の立場は全く違うと感じた。親は学校が子どもをどのように教育してくれるのかという視点で見る。地域の問題として、今の子ども達に必要なものは何なのか。課外活動で広く学ばせる必要があるなら外部指導者を雇えばいい。費用はかかるが、子ども達がやりたいものを、学校で学ばせることは大切なことだと考える。地域がどう寄り添うことができるのか考えなければいけないと感じた。

（委員）

○　地域の大人が子ども達に支援するのは、地域の歴史・文化などがあるが、子ども達にただ指導するのではなく、一緒に学ぶというのがこれからのあり方だと考える。

○　スクールバスの運行について、放課後のクラブ活動の終了に合わせて運行しているのか伺いたい。

（事務局）

○　篠ノ井西中学校の例だが、クラブ活動の時間に応じた時間を設定している。

（事務局）

○　戸隠中学校は部活動の終了にあわせてバスを一便用意している。鬼無里については、最寄りのところで対応しているで、実施はしていない。

（事務局）

○　スクールバスは効率的に運行するようにしている。早い時間帯は小学生が帰るバスに同乗して、遅い時間帯は中学校の部活動が終わる時間帯と、工夫して運行している。

（委員）

○　教育の質を考えた時、資料1の3番目のカテゴリーの学校経営・運営の3番目「少人数の学校は教員同士が実践交流し互いを高め合う面で難しさを感じる。」という点で考えると、長野県内全体を見た場合、山間地では 30 から 40 歳台の中核を担う教員がいない。年齢が上の世代か若い世代というのが現状である。学校の組織として考えた時、中核となり学校を引っ張っていく世代が配置されていない。県の人事異動方針では、山間地での勤務を生涯に一度となっているが、現実にはなかなかそうはなっていない。山間地に行きたいという教員のインセンティブになる手当も伴っていない。

○　中学校で考えると、E 中学校の県費職員は6人であり、9教科あるので当然1教科1人となる。ここへ若い教員が行った場合、モデルとなる先生がいないことになる。自分の授業がこれでよいのか、子ども達が力をつけているのか、そのようなことがなかなか見えない。市費の教員が講師であることを考えると、教員同士の研修機会が少ないという中で、子ども達に対する教育の質の保障ができているのか、単純に給与の面だけでなく見

ていく必要がある。

○　9教科全ての教員がいないということから、美術・技術などの兼務の非常勤教員が小さな学校を掛け持ちで回っている。給与も安いのでなかなかなり手がいないという苦しい現状もある。このような人事の問題もどうカバーするか考えなければいけない。

（委員長）

○　今の話は大変重要だと思う。長野市の教育委員会としてどこまでできるのかということだが、我々にはよく分からない部分もあるので、説明をお願いする。

（事務局）

○　一般的な話だが、県費職員5人のうち、2人は校長、教頭となる。3人が担任で3人は市費の複式解消の講師ということになる。講師の先生方の研修はなかなか進んではいない。国は国の基準で教員を配置しろというが、長野市では複式を解消している。他県では複式としているところもあると思う。

○　北信地域では先生のなり手が多いから、これから平均年齢は上がると思われる。先生が足りないところに若い先生が行くという形になるのでアンバランスが生じ、長野市近辺はここ 10 数年かなり平均年齢が上がることになる。できれば学校には色々な年齢の先生がいて、色々な研修をし、子ども達も色々な先生に接するということが重要な要素になるのではないかと思う。

（委員）

○　正規の配当教員でない講師の先生だが、私が担当した当時は、教職を定年で退職された先生、県に採用されなかった先生を講師でお願いすることがあった。講師の先生方の割合はどのようになっているのか。

（事務局）

○　一般的に 60 歳で定年退職されると、その後再任用で5年ある。採用された若い先生方は、生活基盤のない、人が足りないところに配置される傾向にある。長野市にはたくさんの学校があるが、昨年度末では講師が不足する状況にあり、校長会では退職された先生方にお願いしてなんとかやっているが、それでも足りないのが現状である。産休の先生もいるし、病気になられる先生もいるので、そのような場合も含め、6分の1位が講師の数かと思われる。

（委員長）

○　今までは中山間地の課題だったが、都市部でも課題はあると思われる。前々からのご指摘で、通学区と行政区の違いがあったが、この点についてはいかがか。

（委員）

○　一般論だが、通学区と行政区が一致しないのは悩みとしてあるようだ。通学するところと住むところが違うというのは、地域に根ざした学校、全てを含めた教育を考えると、可能な限り一体化していきたいと思う。その中で地域が「俺たちの学校の子ども」という意識が生まれると思う。

○　今、取り組もうとしているのは、地域として学校教育の問題を考えようということだ。通学区と行政区を一体化さ

せることは、通学の問題、交通の問題等、子ども達を育てていく面で大事な要素だと思う。地域が学校に入り込むのではなく、地域を活かす取組を行い、子どもが学校に行っている時以外は地域があるからいいんだというくらいに出来ないか考えている。

○ 地域の活動で、先生から頼まれた時に、資材の面、技術の面、歴史の面、あらゆる面ですぐに対応できるようにすることが必要だと思う。これは学校のためではなく、地域の財産として復活させることだと考え、取り組みたいと考えている。

○ 通学区と行政区が発展的に統合できればいいと思う。また、地域の教育力を高めようという言葉の内容、方向、人材、組織を継続的に検討する必要があると考える。

（委員長）

○ 行政区ごとに通学区ができると、学校に対するまとまった対策ができると思う。学校教育を支える行政区のあり方も必要かと思う。

（委員）

○ 大半の子ども達がこの通学区で、一部の子ども達が別の通学区であるというのは大変な難しさがある。この点を考える時期に来ているのではないか。PTA 総会の時に、地域の方にお願いしますという場面があった。先生方の努力と保護者の努力の間に子どもがいるが、私達、地域の大人もその中に入れていただき、先生・保護者・地域の三角形を作っていただきたいと話をしたところ、保護者の表情がとても良かった。登下校の問題にしろ、地域として考えることは大切だと思っている。

（委員長）

○ この委員会で、地域の皆さんにも学校教育を支えて欲しいと言わなくてはいけないと思う。

（委員）

○ 地域の皆さんの協力は大変ありがたい。仕事をしてると、参観日では子どもの方が早く帰ってきてしまい、最後まで見ることがでない。地域で子どもを預かってくれる人を募集したが、ここ2年くらいは集まらず、結局そのような家庭の方は先生の話を最後まで聞くことができず、帰らなければならなかった。地域の方のサポートがあると保護者としてとてもありがたい。

（委員）

○ 地域の皆さんには感謝している。地域が重なりあった学校は、PTA の地域と関わった活動もなかなか一つにできないと思われる。通っている学校と住んでいる地域が離れてしまっていると一元化も難しいと感じている。ただし、地域の方と保護者の交流は PTA としても重要視しているので、今後とも是非お願いしたい。

（委員）

○ 本年度、コミュニティスクールを設立するが、授業参観、PTA 総会、校長講話、学級懇談の間、小さな子どもを預かる託児支援を、今まで学校の職員が行っていたが、昨年度より地域の方にやっていただいている。そういう意味で地域の方々が学校にどう関わっていただけるかは、今後、重要な鍵になると思う。

○　通学区と行政区の問題であるが、鍋屋田小学校は大変象徴的な学校だ。第三地区住民自治協議会の上千歳町に学校はあるが、子どもの半分以上は居町、七瀬から通学している。どのような問題がおこるかというと、地域の伝統芸能に関する場合、子どもの集団がいくつかの地域に分かれてしまう。育成会も難しい問題がある。また、コミュニティスクールのトップの方をどの区の区長さんにするか等、調整が難しくなっている。できれば行政区を単位として通学区をつくって欲しいと感じる。

（事務局）

○　明治4年の学校令の頃は村単位で学校をつくっていた。そう考えると行政区と学校は別々ではなかった。人口の増加により学校が増え、通学区が複雑になった。

○　日本の教育制度は、義務教育の場合、どの学校でも子どもたちに一定の学力を保障しようという前提で始まった。現在はそれがなかなか難しくなってきたのでコミュニティスクールとか塾の力を借りるようになってきた。今後長野市の学校教育がどの方向に向かえばよいのか、新しい学校のあり方を考えなければいけないと思う。

（委員）

○　子どもの数により通学区の範囲が変わったことをここ 30 年 40 年強く感じている。人口の動きにより学校をどう設置するかというルールを作らないといけない。その場しのぎのことをやっていると、何十年も先になるといびつな形になってしまう。ルールを作り、それに則ってやることが必要だ。場合によっては学校の統廃合になるかもしれない。もともと通学区と行政区が一緒だったならば、通学区と行政区を一緒にすることを決めなくてはいけない。

（委員長）

○　ルールづくりは必要だと感じる。

（委員）

○　根本的な改革には様々な要素があるので時間がかかると思う。きちんとした組織をつくってやっていただく必要がある。託児支援のように経験を持っている人の手配等、事務局として継続的にやっていただける、市でもなく校長会でもない、中間的な組織が必要かと思う。毎年、住民自治協議会などは人が替わってしまうので、学校と地域の中間に位置する事務局のようなものがあれば良いと思う。

（委員長）

○　今その任務を連携推進ディレクターの方々がやっている。組織として対応しないとできないので、市としてどうするかが重要だ。委員のおっしゃるような組織も必要だと思う。

○　次回あたり専門家の話を聞きたいと思っている。通学区と行政区も長野市としては大きな問題なので、この点に詳しい人、実際にいいモデルをつくった人などに1時間くらい講演をいただくのもよいかと思う。また、こんな分野がいいとかの意見があったらお願いしたい。

（委員）

○　子どもの成長段階で、集団とか教育の質といったことに関わることを専門にやっていらっしゃる方はいかがか。

（委員長）

○　小学校の高学年と低学年である程度分けられるのではないか。低学年は自宅の近くに、高学年になれば遠距離通学もできるのではないか、集団の中の方がよいのではないかということだと思う。長野市の中山間地で学校をどう運営するか伺うのも重要だと思う。

以上